

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3474400359		
法人名	NPO法人エルダーサポート協会		
事業所名	グループホーム愛の郷 神辺		
所在地	福山市神辺町上御領391-1		
自己評価作成日	令和4年11月1日	評価結果市町村受理日	令和5年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	広島県福山市平成台31-34
訪問調査日	令和4年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の周辺は自然に恵まれ、のんびり暮らせる環境にある。職員は散歩や体操・レクリエーション等に積極的に取り組み認知症の進行予防に努めている。また利用者理解に努め個別の声掛けを工夫したり優しい声掛け・笑顔の対応に努めている。協力医との連携を図り緊急時にもスムーズに対応する事で利用者・家族に安心と安全を提供している。季節を感じて頂ける様、初詣・花見・お花観賞・紅葉狩り等の外出支援をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は田畑に囲まれ、また小学校が近くにあり、登下校する子どもたちの姿を見ることが出来る。季節の変化が感じられる環境にあり、交通量も少なくてのんびり暮らすことができる。コロナ禍でも工夫して外出支援をし、職員発案のレクリエーション・体操・散歩など行い、利用者の思いを聞き取って対応し、笑顔が見えるようにケアを行っている。職員はお互いに良いとこ探しをして意識を高め合っている。職員の声を基に休憩時間の確保を行い、働きやすい環境になっている。協力医との協力関係もよく、適切な医療を受けられ、最期まで過ごすことができる場所として利用者・家族の安心と満足を得ている。工夫点として衣類や家具の再利用やパターンに基づいた排泄支援でパットの使用をやめるなど家族の負担軽減につなげている。利用者・家族の要望や地域・行政などの助言に対して、すぐに対応・改善するなどケアの質向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の利用者一人ひとりに敬意と尊敬・慈しみをもって接する事の共有と実践に努めている。各ユニットで年間目標を掲げ、利用者の思いや意向を確認しながら思いやりのある対応に努めている。	法人の理念を基に各ユニットで年間目標を掲げて取り組んでいる。職員ミーティングで話し合い、振り返りをし、現場では管理者から問いかけをしながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年1回の地域清掃に参加したり、「子ども110番の家」の取り組みを行っている。玄関先でレクリエーションを行ったり、散歩し挨拶や会話を交える事で近隣への事業所の周知と理解へ繋げている。地域住民から野菜や新聞紙の提供がある。	事業所周辺に田畑があり、子どもの通学路であることから、庭でのレクリエーションや周辺の散歩時に挨拶や会話を交わし、事業所の周知と理解に繋がっている。地域住民から野菜や新聞紙の提供があり、柿狩りをさせてもらうなどしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者と一緒に散歩したり、玄関先での日光浴やレクリエーションをする姿を地域の方に見て頂き、あいさつ等、声掛けを大切にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で運営推進会議が中止になり開催できなかったが、中止のお知らせを、訪問したり電話連絡した際に、ホームの現状を報告した。	コロナ禍で運営推進会議を開催できてないが、訪問や電話で参加メンバーへ中止の連絡を行い、事業所の状況を報告している。その時に感染予防についての意見などを得て、実践に活かしている。	コロナ感染が落ち着き、運営推進会議が開催され、事業所の活動をアピールできるようになることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課・生活福祉課などの窓口の担当者と必要に応じて連携し、協力関係を築いている。	介護保険課は認定更新の機会に、福祉課の担当者には来所持に、地域包括とは適宜に事業所の状況を伝え、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の虐待・拘束委員会に参加したり、内部研修で勉強を行い、ミーティングで発表、その内容を全職員で共有し実践している。コロナ禍で玄関の鍵を施錠しているが、出掛けようとされる方に対しては開錠し外に出て気分転換を図る対応をしている。	法人内の委員会に参加し、所内のミーティングで伝達し研修している。研修に参加できなかった職員も文書で確認・共有し、身体拘束をしないケアを実践している。出掛けようとする人には散歩や洗濯物の取り入れなど行って気分転換を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	プロ意識を持ち笑顔の対応を心掛けていく。気になる対応にはすぐに注意をして先送りしない対応を行っている。本社の委員会や研修に積極的に参加し、勉強した事を職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人制度を利用する事になった方がおられ、学ぶことが出来た。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、書類(重要事項・契約書等)を通して十分に説明を行っている。改定等があった際は口頭の説明だけでなく書面にして理解・納得を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度、本社から無記名のアンケートを送付する。月に1度、写真入りの「お便り」と担当者からの近況を「手紙」で報告する。面会時は会話を大切にすることで意見や要望を頂き家族との信頼関係を築くと共に運営に反映している。	家族へ、法人から年1回アンケートを実施し、担当者から月1回写真付きで状況報告を行っている。面会時に意見や要望を聞き、運営に反映させている。利用者の要望には、できるだけ早く検討し反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りやミーティングでスタッフに意見や気付き・提案を聞きとり運営に取り入れている。日頃から個々とコミュニケーションを図るよう心掛け、本音で話をする事で人間関係を築き、出された意見や提案を運営に反映している。	申し送りやミーティングで職員から出された意見や気付き・提案から、時間調整により休憩時間が確保できるようにするなど反映させている。日常的に管理者と職員は話し合いを行い、人間関係を築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に勤務状況を把握し、遣り甲斐に繋がる声掛けや労いの言葉を掛け、対話し仕事が楽しいと思える環境作りに努めている。努力を認め感謝を伝えるよう心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社で行われる研修への参加や、内部研修を毎月行いスキルアップに努めている。持っている技術や知識はその都度、安心・安全の対応をすべく伝えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で外部研修や訪問等の機会がなかなか無いが、法人内での委員会へ参加し、他の事業所の取り組み等、勉強した事をホームで共有しサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや願い・趣味・嗜好品等を聞きとり、笑顔で声掛けや対応を行う事で不安感を持たせないように努め、他者との交流の橋渡しをして孤独を感じさせない様に対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までの労をねぎらい、家族の思いや困っている事・要望・願いをしっかりと聞き取り、安心・安全の対応で信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に関わってきた施設等でしっかり聞き取りをしたり、本人とご家族が何を一番に求めているのかを理解し、その要望に沿った支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事は取り上げず、見守り支援する。洗濯たみ・机拭き・野菜の皮むき等、お手伝いをしてくださった時は「ありがとう」「助かります」等の労いの言葉を添えて「役に立っている」との思いを感じて頂けるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来やすい雰囲気づくり・声掛けを全スタッフが心掛けている。コロナ禍の中、面会が出来ない時はリモートでの面会出来る様に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で、面会が難しくなっている為、リモートでの面会を支援している。来所時に一緒に写真を撮り、引き伸ばして居室に飾り、顔を思い出して頂けるよう支援している。	アイパットでリモート面会を行い、実際に面会があった時には玄関で感染対策をして実施している。一緒に写真をとって居室に飾り、その時の話をしている。また、近くの小学校の卒業生は、散歩に行き、思い出を話すなど関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が関わりを持てるように職員が間に入り、皆に分かり易い話題を提供し、一緒に笑える場や時間など楽しい雰囲気づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取り対応をさせて頂いた方のご家族にお会いした時は近況をお尋ねしたり、挨拶をかわし、繋がりを大事にしている。退去された後も来所や電話をして頂ける関係である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉や表情・動きから、思いや意向をくみ取り笑顔を増やせる対応を心掛けている。	利用者の言葉や表情・動きから、思いや意向をくみ取り笑顔を増やせるよう努めている。利用者はレクリエーション(ボウリング、風船バレー、歌を歌うなど)を好み、職員が発案し工夫して実施している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族にこれまでの暮らしぶりを聞きとる。介護サービスを利用されていた方は、利用中の様子等を事業所から提供して頂く。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り時に一人ひとりの心身の状態を報告。全職員で共有できるように申し送りノートを作り、漏れのない様に対応している。小さな変化にすぐに気づけるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が家族や医師の意見を反映し本人本位を心掛け、状態に応じて柔軟に対応している。サービスチェック表を作成し介護計画に沿った対応に努め、介護目標を意識した支援・記録に努めている。	介護計画は計画作成担当者が、入所前担当者からの情報、本人・家族、医師等の意見を反映して本人本位に作成している。モニタリングは3か月毎に、計画見直しは6か月ごとを実施している。サービスチェック表を作成し、目標に沿った支援を行い、記録をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録すると共に、サービスチェック表を作成しサービスが実践できたかを確認している。個々のその日の様子を申し送り時に詳しく伝え職員間で情報を共有しプランに沿った対応に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の主治医はいるが、他科の受診が必要になれば送迎や付き添いを行っている。ADLの変化に合わせた対応を医師・看護師・薬剤師等も含めた多職種との連携で本人・御家族と相談しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の散歩や花見・紅葉狩り等に出掛け、楽しみや喜びを感じ生き生きと生活できる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に事業所での対応を説明し本人・家族の希望のかかりつけ医を決めている。事業所の主治医は2週間に1度往診がある。医師との協力・信頼関係で夜間や緊急時にも適切な医療を提供できる。歯科医も必要に応じて往診できる。	入所時に説明し本人・家族の希望のかかりつけ医としている。事業所の協力医は2週間に1度往診し、夜間・緊急時に対応している。歯科医も必要時往診、または、近医へ職員が受診支援するなど、利用者が適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1人ひとりの日々の状態を介護者がしっかり把握し、看護師に気付きや状態の変化を報告・相談している。看護師は利用者の状況に変化があると主治医に連絡し速やかな対応を心掛け支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には主治医に相談し入院先への受け入れ対応がスムーズにできる。入院期間には面会に訪れ、病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事業所で対応出来る事を説明している。殆どの方が事業所での看取りを希望している。医師との連携を図り家族の意向に沿った支援に努めている。	入所時に重度化や終末期に向けた方針について説明し、初回受診時に医師から説明をしている。重度化した場合には、本人が寂しくないように配慮しながら、医師と連携して家族の意向に沿った支援をしている。看取りの時には管理者が支援し、職員も安心して対応できるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて、職員が慌てる事のないようマニュアルを作成し、医師との連携を図るように方針を共有している。管理者がいつでも指示が出せる・駆けつけられる体制でいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防・地震避難訓練を夜間想定も含め利用者と一緒に行っている。水消火器で消火訓練も行い、訓練後は振り返りを行っている。非常用食糧や備品は法人本部と確認・準備をしている。	年2回、消防・地震避難訓練を夜間想定も含め利用者と共に行っている。事業所は地域の避難所にもなっている。隣接している住人とは火災時に協力・支援が得られるよう関係維持に努めている。非常用食糧や備品は法人本部に準備を確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人や事業所で接遇マナーの研修を行い、自己決定やプライバシーの確保に配慮している。本人の尊厳を無視するような対応にならないよう、職員同士で注意し合える環境作りに努めている。	自己決定を促す声掛けをし、排泄時や居室入室時には誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。苗字での呼びかけを基本としているが、中には希望の呼び名で話しかけている人がいる。申し送りは小声で行い個人が特定されないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「～したい」の希望・訴えには出来るだけ意に沿えるよう対応している。普段から言葉以外のスキンシップを心掛けたり、表情から「どうされましたか」と声を掛け思いを伝える事の出来る環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何を優先すべきかを考え、利用者第一の対応を心掛けている。顔色や体調に気を配りながら居室で過ごされたり、他者と交流をしたりと楽しい環境作りを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ禍の中でボランティアの散髪が難しい中、ご家族の了解のもと、その方に合った感覚で職員が散髪をしている。男性には毎日の髭剃りを促し身だしなみを整える支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3食職員が手作りしている。行事に合わせてケーキやお寿司・おせち等を提供する。医師に相談し糖尿病食や食事形態に配慮した支援をしている。	利用者の要望も取り入れて3食職員が手作りしている。行事に合わせてお寿司やおせち・誕生日のケーキなどを提供している。医師に相談し糖尿病食や食事形態に配慮した支援をしている。食事の時はテレビを消して音楽をかけている。一緒におやつを作ったり、柿狩りをして、柿を材料にした菓子を楽しむこともあった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの食事量や形態を把握しバランスのとれた食事の提供を心掛けている。不足している部分は嗜好品や栄養補助剤を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、1人ひとりに合った口腔ケアを行っている。介助の必要な方や十分なケアが出来ていない方には職員が援助し清潔が保てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンや排便状況を把握し、個々に応じた排泄介助を支援している。体操やレクリエーション・散歩などでトイレでの排泄維持の工夫をしている。	排泄パターンや排便状況を把握し、個々に応じた支援をしている。立位が難しい人も2人介助で行い、できるだけトイレでの排泄を促している。パターンを把握した排泄でパットの使用をやめた人もいる。体操やレクリエーション・散歩などを行い、トイレでの排泄行為が維持できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、軽運動を行ったり水分摂取量や排便チェックを記録し早めの便秘解消に努めている。あまりにも便秘が酷い方には医師に相談し服薬対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回、体調確認後に手動調節の機械浴で湯船に浸かり、会話や歌を楽しみながら気分よく入浴できるよう支援している。利用者の状態によっては医師と相談し入浴や清拭など指示を受けて清潔が保てる様に支援している。	週に2回、手動調節の機械浴で浴槽に浸かり、会話や歌を楽しみながら気分よく入浴し、利用者の楽しみになっている。利用者の状態によっては医師と相談し入浴や清拭など指示を受けて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調に合わせてホールで過ごしたり、臥床を促し対応している。夜間は本人の希望に沿って照明などを調節し、安心して休めるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬量と副作用に注意し状態観察に努めている。薬は器に入れて個々に合わせた薬の形態にし服薬介助する。必ず服薬確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手作業・散歩・出来る事・したい事を把握し、毎日のレクリエーションに取り入れたり、メリハリのある一日となるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	介護度の高い方が殆どではあるが、法人の協力を得て、笠岡ベイファームでのお花観賞・紅葉狩り・初詣等、外出の機会を設けている。天気が良い日は散歩や外気浴を行い、入居者の気分転換にも努めている。	介護度の高い人が多い中、法人の協力を得て、笠岡ベイファームでのお花観賞・紅葉狩り・初詣等、外出の機会を設けている。また、職員の家での柿狩りを楽しんだり、散歩や外気浴、玄関先でのレクリエーションを行ったり、日常的に戸外へ出かける支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は難しいが、家族の了解のもと欲しい物の購入を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から家族への電話の希望は無いが、家族からの電話には椅子を用意しゆっくり会話ができるよう支援している。家族から届いた手紙は居室で読み聞かせ、届いた絵手紙を壁に貼る等の支援をしている。リモート面会の対応も支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は毎朝夕掃除・消毒し清潔を保っている。ホールには空気清浄機を設置している。温度管理・換気・臭いなどに配慮し居心地よく過ごせるよう工夫している。季節を感じられるよう壁面作りや飾りつけをしている。	ホールは木目調で、利用者がテーブルに集いレクリエーションや体操をして過ごしている。季節感のある手作り作品を飾り家庭的な空間を作っている。掃除が行き届き、空気清浄機を設置して、温度管理・換気・臭いなどに配慮し居心地よく過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファを置いたり、畳を敷いた場所作りをして自由に使用できる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談して使い慣れた家具や写真・手作り品を置いて居心地よく過ごせるように工夫している。	家族と相談して使い慣れた家具や仏壇を配置し、家族の作品・写真・利用者の作品などを飾り、居心地よく過ごせるように工夫している。面会時の写真を引き伸ばして飾り、それを見ながら会話を楽しむ人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は整理整頓し安全に過ごせるよう配慮している。トイレ・洗面・居室の表示で自立した生活ができるように工夫している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	年2回の消防・地震避難訓練を夜間想定も含め実施しているが、技能実習生を受け入れており、言葉や訓練の内容が理解出来ていない。	全スタッフが、訓練に参加できる様にする。	技能実習生に、12月に予定している避難訓練に参加させ、消火器の使い方や避難時の注意等をしっかり教える。	1年
2	3	コロナ禍で運営推進会議が開催出来ず、中止を書面にしてお知らせする際、訪問してもお会いできない場合ホームの現状をお伝え出来ない。	中止のお知らせの書面に、入居者様の写真や現状・行事等を入れ、様子が分かり易くする。	行事の写真(外部に出しても良い方)の選別をする。	1か月
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

(別紙4(3))

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

特定非営利活動法人 あしすと

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="radio"/> ⑤その他()
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="radio"/> ④その他()
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="radio"/> ⑤その他()